



5万分の1地質図幅の新刊

名古屋北部
NAGOYA-HOKUBU

5万分の1地質図幅 地域地質研究報告

著者 坂本 亨・桑原 徹・糸魚川淳二・高田康秀・
脇田浩二・尾上 亨

発行 工業技術院 地質調査所

取扱先 東京地学協会 (03)261-0809, 262-1401

ほか

販売価格 1,840円

大都市市街地の地質図を作ることは 社会的要請は大きいとはいへ 露出は少ないし 調査はやりにくいし 地質家にとっての難題の一つである。最近になって 阪神地域や東京など大都市がらみの地質図幅が出版されるようになって来たが この「名古屋北部」も 名古屋市街地の北半とその北方に連らなる春日井・小牧などの近郊都市群を含んでおり そうした調査の困難さを充分に抱え込んだ都市周辺図幅の一つといえる。地形的には 犬山扇状地から一宮氾濫平野・蟹江三角州にまたがる濃尾平野の中央東部と 濃尾平野東縁に断続する台地・丘陵・山地群とを含んでいる。

平野が大半を占めるとはいへ この地域の北東隅には 二疊～三疊紀のチャート層とジュラ紀の砂岩泥岩層・泥岩チャート層よりなる中・古生層も分布している。それを貫くトータル斑岩・黒雲母花崗岩の小岩体は 白亜紀のものであろう。

新第三系では 中新統は地表には分布していない。鮮新統の矢田川累層（東海層群）が 地域東縁の篠岡・竜泉寺・東山の丘陵群を構成し 西または南西へ緩斜している。矢田川累

層が 下部から上部までほぼ全体的に通観できるのは この図幅の範囲内では篠岡丘陵である。ここでは 調査当時“桃花台”と呼ばれる大規模な住宅団地の建設途上であったことが幸いして 下部砂礫層・中部泥層・上部礫層の区分が可能であった。また その北方の本宮山山地を取り巻く矢田川累層の発達状況は その堆積当時の古地理の変遷などを考える上で示唆的である。庄内川以南の丘陵には 矢田川累層の上部のみが発達する。

第四系では 唐山層・八事層以下 高位・中位・低位の段丘群が発達する。中位の熱田層が海成層を挟むのを除いて 他はすべて扇状地性の礫層よりなっている。

一方 この報告の特色は 濃尾平野の地下地質について 応用地質の地下水の項も含めて かなり詳しく記述していることである。今後の大都市一平野地域の地質図幅の進むべき方向を示しているものと言えよう。

地質ニュース	第363号	11月号
	定価 ¥ 600	千実費
昭和59年11月1日	発行	
編集	工業技術院地質調査所	
発行人	林 久 雄	
発行所	株式会社 実業公報社	
	〒102	
	東京都千代田区九段南4の2の12	
	Tel. (03)265-0951(代表)	
	振替口座 東京1-32466	
総発売元	株式会社 実業公報社	
	出版事業部	